

会 議 録

会議の名称	令和2年度 第1回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会
開催日時	令和2年11月24日(火) (午前 午後 3時00分 開会) (午前 午後 5時05分 閉会)
開催場所	茨木市福祉文化会館 203号室
議 長	野口 義文 氏 (立命館大学 研究部・産学官連携戦略本部)
出 席 者	伊津田 崇氏 (中小企業診断士)、大岩 賢悟氏 (公募市民)、笹井 直木氏 (茨木商工会議所)、高石 秀之氏 (工業事業者)、谷 正之氏 (バイオインキュベーション施設運営事業者)、辻田 素子氏 (龍谷大学 経済学部)、西村 庄司氏 (農業事業者)、野口 義文氏 (立命館大学 研究部・産学官連携戦略本部)、前川 哲司氏 (北おおさか信用金庫)、前田 幸子氏 (商業事業者)、森本 康嗣氏 (公募市民) (11人)
欠 席 者	なし
事務局職員	徳永商工労政課長、橋本商工労政課長代理、武部商工振興係長、浦商工労政課職員 (4人)
議題(案件)	(1) 趣旨説明 (2) 委員長、副委員長の選出 (3) 会議の公開について (4) 提案公募型補助制度の審査について (報告) (5) 産業振興アクションプラン (後期) の総括について (6) 次期プランの策定について (7) その他

配付資料	<ul style="list-style-type: none">・資料1 提案公募型補助制度の審査について・資料2-1 産業振興アクションプランの進捗状況・資料2-2 令和2年度新型コロナウイルス感染症対策事業・資料3 後期アクションプランの総括について・資料4 新プランの策定作業イメージ・資料5 新プラン策定スケジュール（案）・資料6 新プランの体系について（案）・資料7 新プラン運用スケジュール・参考資料 第5次茨木市総合計画 後期基本計画（概要版）・参考資料 おおさか経済の動き 2020年4～6月版
------	--

議事の経過

1 開会

事務局：開会のあいさつ

委員出席状況（11人中11人出席により会議成立）

2 趣旨説明

事務局：（産業振興アクションプラン推進委員会の趣旨・概要を説明）

3 委員長、副委員長の選出

委員長に野口委員、副委員長に伊津田委員を選出

4 会議の公開について

事務局：市の指針に則り、会議は原則公開とする。

会議録は要約したものを公開する。発言者は個人名を記載する。

なお、今回の傍聴希望者はなし。

5 提案公募型補助制度の審査について（報告）

事務局：（資料1をもとに説明）

<質疑・意見等>

委員長：新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、今年度は書面で審査を行いました。来年度はオンラインツールの活用を検討しても良いのではないかと思います。また、コロナ禍では集客を必要とする取組が難しいので、オンラインイベントにシフトしてもらう仕組みや、基本的に集客のない産学連携スタートアップ支援事業への予算のシフト等も、全体バランスを考えて検討の必要があるのではと感じました。

谷委員：産学連携スタートアップ支援事業補助金の申請件数は6件ということですが、もっと申請が出てきても良さそうな印象を受けます。

委員長：申請が少ない点は課題であると認識しており、申請企業の裾野を広げる努力はしていますが、結果として今回はそこまで件数が伸びなかったのが現状です。

事務局：補助金の創設当初から、特に文系学部との連携が少ない状況です。毎年、大学と企業に接点を持ってもらうための『産学連携交流サロン』を開催しており、そこから補助金を活用した取組に繋がればと考えています。

高石委員：私の会社も産学連携スタートアップ支援事業の採択を受けていますが、新型コロナウイルス感染症の影響で、今年の上半期はあまり取組を進められず、予定よりも出遅れているのが現状です。

委員長：不可抗力で取組が後ろ倒しになる場合、補助金の予算も翌年に繰り越しできれば良いのですが、制度上できない場合もあるかと思います。せっかく良い取組を提案いただいているので、コロナ禍などの不可抗力の場合は、取組期間に幅を持たせても良いのではないのでしょうか。

事務局：制度上、その年の予算から補助金を交付するには、3月末までに取組を完了いただく必要があります。翌年に繰越す場合は議会の議決を要しますが、各取組の進捗に合わせて議案を上げるのは実務上困難です。このため、3月末までに完了した部分は今年度の予算から補助金を交付し、翌年にずれこんだ分は、翌年新たに申請いただくという対応を考えています。

谷委員：このような補助金の情報は、市のホームページに載っているのでしょうか。

事務局：ホームページに掲載しているほか、製造業を中心とした事業者には、市の制度をま

とめた『お役立ち帳』に掲載し、配付しています。また、募集時期には広報誌にも掲載するので、注視いただければと思います。

谷 委員：商工会議所や彩都にある企業のメールマガジンにも掲載可能と思われるので、活用いただければ。

大岩委員：今年度予算の残額を来年度に繰り越すのは、予算の仕組み上難しいと思いますが、その分も来年度予算を増額するなどして、市の活性化につなげてもらいたいと思います。

事務局：申請や採択の実績を踏まえて、必要であれば前年度よりも増額の予算要求を行うなどしていますので、多くの団体に補助金を活用いただければと思います。

6 産業振興アクションプラン（後期）の総括について

事務局：（資料2～3をもとに説明）

<質疑・意見等>

委員長：取組の進捗を示した表（資料2-1）と、各委員による評価結果を取りまとめたシート（資料3の右側）を後期プランの総括として公表するということですが、資料2-1の内容は、どこまで公表する予定でしょうか。

事務局：基本的には、数値を含めてすべて公表予定です。加えて、数値には表れない成果は、文章で補足しようと考えています。

委員長：1月に各委員による評価を行うという案ですが、これは初めての試みです。各委員には、「案にある評価基準が適切か」「公表イメージは市民が見たときに分かりやすいものか」という視点から、ご意見をいただければと思います。

先ほどの説明を聞く限りでも複雑な部分があるように感じますが、ただ「準備は複雑であっても、舞台（公表）はシンプルに」というのが成功の秘訣ですので、特に公表の際には、できるだけシンプルな理解が進む見せ方が望ましいと思います。

西村委員：評価シートは全部で9枚（資料2-1「ビジョンの重点方向・重点取組」欄の①～⑨に各1枚）で、各シートの中に、達成度・必要性を評価する項目（資料2-1「後期アクションプランの施策」欄の各項目）が2～4つずつあるということですね。資料3の公表イメージについてですが、各委員が書いたシートをそのまま公表するのでしょうか。

事務局：各委員の評価結果を、事務局で取りまとめて1つにしたシートを公表します。

西村委員：今の案だと市民に9枚のシートを見てもらうことになりませんが、もう少し集約した方が見てもらいやすいと思います。また、どの項目がプランのどこに対応しているのか分かりづらいので、例えば、資料2-1の右端に評価項目の欄を追加する方が良いかもしれません。

委員長：達成度・必要性は3段階評価となっていますが、委員によって判断が分かれると思います。最終的にどの評価をつけるかは、事務局から案を提示いただけるのか、推進委員会で議論をするのか、どちらでしょうか。

事務局：委員の評価を踏まえて、事務局案を作成・提示したいと思います。

前田委員：評価をしようという意図がよく分からないのですが、委員の意見を市民に知ってもらうことが目的なののでしょうか。

事務局：ビジョン・プランに基づいて取り組んだ結果を市民にお知らせすることも一つの目的ですが、取り組んだ結果を受けて、今後どう取り組んでいくのか、次に向けてスタートを切るための題材にしたいというのが一番の目的です。

当初のビジョンは、丸2年をかけて調査や部会の開催を経て策定しましたが、今回は、評価から課題や強みを見極め、次に活かしたいと考えています。

高石委員：前期プランでは委員による評価はなかったと思いますが、今回導入に至った経緯は

どのようなことでしょうか。

- 事務局：前期プランの際は、実施結果のみを提示していたと思いますが、それだと、施策の目的が達成されたかどうかが見えにくい面がありました。その点を明確にして次期プランに繋げられるよう、今回はやり方を変えてみようという考えです。
- 高石委員：5年間取り組んできた結果を昇華できる機会があるのはありがたいことですが、その分責任も感じますね。例えば、私は工業分野の事業者という立場ですが、直接専門ではない農業の施策を評価することは、特に問題ないでしょうか。
- 事務局：問題ありません。立場が違えば見え方も異なりますので、ご意見をいただきたいと思います。
- 高石委員：評価の目的として、次期プランはより良いもの・影響力のあるものにしたいという想いがあるのだと思いますが、各委員レベルでは「これをやれば良い」というような提案をするのは難しいかもしれません。どのレベルまで考えて評価すれば良いでしょうか。
- 事務局：委員1人1人に事業の提案を求めるものではありませんので、感想や「ここにもっと力を入れた方が良い」など、忌憚のないご意見をいただきながら、最終的に一定の方向性にまとめられたらと考えています。
- 谷委員：今回の評価はPDCAサイクルの一環であると思いますが、市が策定した計画（P）に対する市の評価を委員がチェック（C）するのか、または、委員が評価（C）をするのか、どのようなスタンスで考えればよいでしょうか。
- 委員長：本推進委員会がいわば第三者機関的な立場から評価（C）を行い、客観的視点を持った委員会の意見として市（商工労政課）に返すというスタンスと考えます。
- 谷委員：資料2-1で実際の進捗状況を見ると、1行目にある「多様な事業者の連携による新たな商品・サービスの開発数」の実績は5年間で2件となっていますが、身近な企業でも新商品の開発をしているところはあるので、実際はもっと多いのではないのでしょうか。また、1～5行目の取組は提案公募型補助金を使ったものなのかそうでないのか、資料1の件数とも合致しないように見えるので、数字自体が正しいのかどうか分からないと評価できないと思います。
- 委員長：補助金を活用した取組と、そうではなく、個別に相談があつて把握した取組などが混在していて、分かりづらい面もあるのかもしれませんが。
- 事務局：ご指摘のとおり、補助金を活用した取組とそうでない取組が混在している状態です。また、補助金を活用していない取組については、全数を市が把握できる仕組みもありません。これらを踏まえて、次期プランでは評価指標の設定の仕方を十分検討する必要がありますと思います。今回どのように評価いただくかについては、整理したうえで、改めて提示したいと思います。
- 委員長：1行目の項目は、目標7件に対して実績2件であり、これだけを見ると、今後も継続という評価にはならないと思います。しかし、制度の中身を見ると、「市の施策と合致するものだからPRの仕方や金額・対象者などを見直して継続する」、一方で「市の施策と合致しないから廃止する」という判断もあり得ますので、数値の大小だけでなく、施策との関連も踏まえた定性的な評価も加味する必要があります。
- 前川委員：目標値が設定されているなら、「達成度」の評価は、目標値に達したか・届かなかったかの2択がシンプルではないのでしょうか。その上で、達成したから今後も継続する・達成しなかったからやり方を変更するなど、今後の方向性を評価する方が分かりやすいと思いました。
- 事務局：ご指摘のとおり、各指標の達成度は目標値から達成・未達成を判断できますが、今回の達成度の評価は、指標より上位にある「後期アクションプランの施策」ごとに行いたいと考えています。例えば、1つ目の「(1)市内事業者の事業活動への支援の

充実」の施策には関連する指標が4つあり、それらを総合的に判断して評価をつける必要があります。また、先述のとおり、数値に現れない部分は文章で補足しますので、それも踏まえて評価いただきたいと思います。

どの指標がどの施策と関連が強いのか分かりづらい形となっていますが、ご意見を踏まえ、評価材料の示し方は検討いたします。

ここまでのご意見を踏まえると、まずは事務局の評価案を提示したうえで、その案が妥当かどうかを議論いただく方が良いように感じます。

伊津田委員：評価が難しいと感じるのは、定量的な指標と定性的な指標が混在しているのも一因かもしれません。定量的な指標は数値を見れば客観的に判断できるので、あとは、定性的な部分での判断材料を提示いただければと思います。

また、この時代、SDGsの目標にあるような環境への配慮の視点も踏まえて、産業振興を考えないといけないとも思いました。

別件ですが、資料2-2の「いばらき経営サポートデスク」では、専門家を増員して新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者の経営相談に当たっていますが、経営相談の件数が1か月で11件ということで、状況が落ち着いているのか、広報不足なのか分かりませんが、かなり少ない印象を受けます。

辻田委員：先ほどの事務局からのコメントのとおり、まずは市の評価案を提示・説明いただいた上で、委員も含めて質疑応答や意見交換を行い、最終的な評価を決める方が、生産性が高いと思います。

また、「①事業活動の価値向上」の項目であれば、その下の施策にどう取り組んだかということだけではなく、実際に事業活動の価値が向上したかが分かるマクロ的な数字も提示いただいて、継続の必要性を評価した方が良いと思います。

笹井委員：私は仕事上、資料を見れば各事業の内容がイメージできますが、そうでない委員は特に評価しにくいと感じました。

「成長を目指す事業者の活力向上」の「③起業の促進と成長支援」は、茨木市は積極的に取り組んでいるので、今後も伸ばしてほしいと思います。

森本委員：資料2-1の表は、左側にいくほど抽象的な内容になりますが、それらの項目がどうなれば達成されたことになるのかが数値化されていないので、評価も主観によるものになってしまうと思います。

また、指標に対する目標値は数値化されていますが、その指標自体が、今やろうとしている評価に適したものになっていないと思われる。例えば、〇〇に何件取り組んだという目標設定は、プロセス目標としてはあり得ますが、その目的は売上を増やすことなのか、雇用を増やすことなのか、そのあたりの設定が必要だと考えます。

この表だけを見て継続の必要性が判断できないのは、やはり指標の設定に課題があり、次期プランでは見直しが必要だと思います。

また、補助金などの制度によらない間接支援の件数の把握の仕方は、以前から課題となっていますので、整理する必要があると思います。

大岩委員：現在のプランは、そもそもの目標や、達成度を測るためのゴールが分かりづらい面があると思います。また、自分が関わったことのないセミナーなどの取組は、その中でどのような動きがあったか・実施した結果どうなったかなど裏側が分からないので、提示された数字でしか評価できないという面もあります。

さらに、今回は施策の単位で評価するということですが、例えば「(3)設備等の環境対応促進と環境産業関連情報の提供」の施策に対応する指標は何もないように思います。このように、やっても見えてこない部分の評価は難しいため、施策単位での評価自体が困難なのではないでしょうか。「成長を目指す事業者の活力向上」

など、もっと上位の部分であれば、まだ主観的に評価できると思います。

委員コメントの欄は、将来につながる建設的な意見を求めていると思いますが、どのような観点からコメントすれば良いか分かりやすい方が良いと思います。

委員 長：各委員のご意見を踏まえると、当初事務局から頂いたご提案の数値データと定性的な部分の補足コメントをもらっての評価も、委員が一から評価するのは若干無理があると感じました。今後の方向性についての評価も踏まえた事務局案を提示いただき、委員から指摘・助言するやり方が今回は適しているのではないかと考えます。今後については、令和3年度中に考えるということで一定の時間がありますので、施策及び施策と整合性のある指標の策定が十分な議論の末にできればと思います。

事務局：「後期アクションプランの施策」には「～の支援」や「～の機会づくり」など、活動の内容しか定めていないので、そもそも施策単位での評価には無理があるかもしれません。「ビジョンの重点方向・重点取組」欄の①～⑨の項目単位での評価なら、各施策による活動の結果、10年前とどう変わったかを示す材料が提示できるので、現在の指標と併せて、評価しやすい体系に整理してお示しします。

7 次期プランの策定について

事務局：（資料4～7をもとに説明）

<質疑・意見等>

委員 長：次期プランでは、取組事項や重点事項をどう考えるか、効果を測る指標をどう設定するかが非常に重要になってくると思われれます。来年度は初めて推進委員会を6回開催する予定ですので、十分に議論できればと思います。

なお、次期プランは令和4年度からということですが、令和3年度は、現在の延長線上で同じ事業を実施するのか、新たな事業を開始するのか、その点事務局はいかがでしょうか。

事務局：令和3年度については、状況が日々流動的で、来年4月以降、どこに軸足を置いて事業を実施するか現時点では分かりませんが、現状では、現状の事業を進めつつ、コロナ禍での事業者支援をタイムリーに行っていくという1年になると考えます。

8 その他

事務局：次回は2～3月に推進委員会を1回開催させていただく予定です。

なお、議題にありました産業振興アクションプラン（後期）の評価については、1月頃に資料と事務局案を送付いたします。

事務局：それでは、以上をもちまして委員会を閉会させていただきます。

ありがとうございました。